



豊かな感性を 育むために

体験を通して 学ぶこと

私たちは、様々な体験を通して多くのことを学びます。うれしいことも、つらいことも、楽しいことも、悲しいことも実際に体験することで、心は幅と厚みを持つことができます。それは、自分がつらい体験をした人ほど、人に対して優しさを持つといわれています。ことからもうかがえます。

生き物を 飼うことで

市内の幼稚園や学校では、金魚やめだか、ウサギやニワトリなど、多くの生き物を飼っています。また、犬や猫などを飼っている家庭もあるでしょう。

生き物を飼うことは、共に過ごす楽しさや心癒されることだけでなく、食事の世話や排泄物の片付け、小屋や水槽の掃除、適度な運動をさせることなどの責任も伴うものです。そして、生き物の命は限りがあるため、死による別れという最もつらい体験にもつながります。

ここで紹介するのは、市内の小学生が、飼っている犬の病気を心配する気持ちを作文にしたものです。人を大切に思う気持ちの芽生えは、生き物との関わりからも育つのではないのでしょうか。



こたろうの病気

仁賀小学校 三年 和泉空

「こたろうがぜんぜん動いていない。」

とつぜん、おねえちゃんが言いました。こたろうは、うちで飼っているバグの犬です。ぼくが保育所時から飼っています。ぼくはこたろうの所へ行ってみました。こたろうは目をつむったまま、家の中でたおれていました。

お母さんは、こたろうを、こたろうが生まれた家へつれて行きました。その家の人が、犬の病気にくわしいからです。その家に、今でもこたろうのお父さんお母さん弟たちがくらししています。こたろうは、その家で病気を治してもらおうことになりました。

こたろうがいなくなつてから、ぼくはゆめを見ていました。はじめてこたろうをもらったとき、ぼくはゆめを見てきました。こたろうは、ねむっているぼくの顔をなめてくるので、ねむれませんでした。毎日毎日、こたろうのゆめを見ていました。こたろうが元気になって帰ってきてほしいとずっと思っていました。こたろうは、いつも元気でした。

朝は、ぼくが起きるよりもずっと早く起きていました。ごはんもガツガツ食べていました。いくら食べても、「もつとちようだい。」

と、ワンワンおねだりしてました。ぼくが学校から帰ると、いつも家の前とびはねながら、よるこんでないてました。だから、こたろうが病気になるなんて思っていました。

ぼくは、こたろうが大好きです。病気になったこたろうが家を出てから、今どうなっているのかはわかりません。今まで元気だったこたろうが、どうして病気になったのか考えてみました。餌をいっぱいあげすぎたのかなあ。いっぱい水をあげすぎたのかなあ。ぼくには、わかりません。こたろうがいなくなつて、ぼくはずっとかなしいです。

学校から帰るたびに、こたろうをさがすけどどこにもいません。なき声もしません。静かすぎます。早く帰ってきてほしいです。早く元気になっていっしょにまた遊びたいです。ぼくは、こたろうをずっとまっています。「こたろう早く帰ってきて。」

要約筆記技術習得

要約筆記とは、耳の障害をもつ人（主に難聴者・中途失聴者）に会話などを「聞きながら、わかりやすく、まとめて、書いて伝える」ことです。

要約筆記を行うために必要な知識と技術を身につけて活動していただける人を募集します。

問い合わせ

竹原市社会福祉協議会 ☎ 22-5131

「法テラスの日」県下一斉無料法律相談会

弁護士による無料法律相談会を実施します。

日時 4月14日（土）13時～16時

場所 ふくしの駅

定員 6人（先着順・完全予約制）

相談時間 1人30分

受付 4月2日（月）までに法テラス広島（☎050-3383-5485）へ。（9時～17時受付）